

一本一本 魂を込めて 剣道部



積極的に攻めて相手を翻弄

六月二日〜四日、県立武道館で剣道の春季総体が行われた。男子個人戦では二丁江戸一誠が三位、女子個人戦では三丁一橋詰みゆがベスト八となり北信越大会への出場を決めた。男子団体一回戦は、鯖江に四一〇で完勝した。二回戦は北陸と対戦し、二一で敗退となった。女子団体一回戦は福井商業と対戦し、三一〇で圧勝するも、二回戦で今大会優勝した敦賀気比と戦い二一で惜しくも敗退した。

男子主将の武長孝要さんは試合を振り返り、「インターハイ出場という目標が達成できなかったのが悔しい。次の世代には、個人でも団体でもインターハイ出場に期待



思い切りよく踏み出す

したい」と語った。女子主将の橋詰さんは「個性豊かで一人一人が自分の強みを持っている。それを生かして来年も優勝を目指してほしい」と後輩に期待を込めた。

北信越大会出場について、橋詰さんは「インターハイを逃してしまい悔しい気持ちはあるが、北信越で優勝できるように頑張りたい」と決意を示した。同じく北信越を決めた江戸さんは大会までの準備として「初心に戻って今まで教えてもらったことを確認し直したい」と自分自身と真摯に向き合っていた。

最後まで諦めず 食らいつく ソフト部

六月三日〜四日、敦賀きらめきスタジアムで春季総体が行われた。一回戦は仁愛女子高校と対戦した。先攻は仁愛、初回に二点を取られるが、その裏の攻撃で美方打線がつながった。大量五得点で一気にリードした。



恐れず相手に立ち向かう



声かけ気持ちを一つに

その後は二回に二点、四回に二点、六回に一点と追い上げられ逆転を許した。美方は二回以降得点できなかったが、三塁まで進み惜しい回も多々あった。攻められても点が離れないようアウトを確実に取り、引き締まった戦いを続けた。結果は五―七と接戦の末敗退した。これまでの練習試合ではミスが出ると連鎖し、相手に得点を許してしまふことが多かったが、今大会は練習通りのプレーができ、今年一番の好ゲームになったようだ。

キャプテンの山口愛望さんは「初回で二点を取られ気持ち追い込まれたが諦めず五点取り返せて良かった。チームの粘り強さに感動した。今ま

でにないナイスゲームを作り上げてくれて感謝している。これから試合に勝つ楽しさを知って頑張ってもらいたい」と後輩にエールを送った。顧問の田上先生は「勝てそうだったから正直悔しい。これからは先輩が築いたチームの良いところを大事にしていってほしい」と語った。

自分を信じて 自分に負けない バレー部

六月一日〜三日、武生東高校で春季総体バレーボール競技が行われた。一日目は予選リーグが行われ、美方高校は鯖江高校と福井農林高校と対戦した。一試合目の鯖江戦は、田中美羽のサーブで始まった。鯖江に一セット目を取られてしまったが、二セット目は取り返した。勝負の三セット目



美方の強烈なスパイク

は点を取られ取り返す接戦が続いたが、最後は鯖江のアタックが決まり惜しくも負けてしまった。二試合目の福井農林戦は、一セット目を取られてしまったが、その後立て直し二セット目、三セット目を奪い返し、予選リーグを一勝一敗で突破した。二日目の決勝トーナメント二回戦は三国高校と対戦。美方は三国の攻撃に必死に耐えるが、二対〇で負けてしまい、決勝トーナメント二回戦敗退となった。

外部コーチの辻さんは「今年のチームは浮き沈みが激しいがとても元気がいい。これからも、自分を信じて自分に負けないプレーをしてほしい」と語った。ゲームキャプテンの田中美羽さんは「声を掛け合っチームの雰囲気下がることがなかったのが良かった」と語った。

今大会は我々新聞部も取材を忘れて応援するほど手に汗握る戦いだった。今後のバレー部の活躍に期待したい。